

小学生80人が『大学生』に

桐生大学で初の「こども大学」

小学生が大学生を体験するイベント「こども大学 in 桐生」が7月31日、みどり市等郷町の桐生大学(関崎悦子理事長)で行われた。施設見学を發展させ、大学という場所、教授という人材に親しむ機会を提供する同大初の企画。定員50人の倍の申し込みがあったため、埼玉県からの参加をふくむ約80人の小学生に「入学」を許可した。



小学校高学年の段階で大学に親しみとあこがれを持つことで、中学・高校での学習態度や大学進学への意欲を高めようと、初めて実施された。子どもたちは入学式にのぞみ、学生証や大学ノートを受け取って、大講義室での90分授業へ。

講義を担当したのは看護学科の瀬野尾章教授で、稲妻から電気技術の基礎を考えた学者たちや、ガラパゴス島でゾウガメなどの観察から進化論を導いたダーウィンなど、写真や絵図を多用してわかりやすく説明。「よく見て、考えること」の大切さや、「いまの勉強が基礎、すべての教科が大事」とのメッセージを送った。

「小学生を対象に話すヒマワリの『らせん』を観察する子どもたち(桐生大学で)」

のは初めて。わかっていく。具体化する観察や実験の。て6コーナーが設けられ。スを考えながらのバイキ。れたかな」と同教授。講。実技の時間で、デザイン。ランチタイムは学生。ング。大学探検ツアーを。義のあとにはメッセージを。や栄養の講師陣も加わっ。レストランで栄養パ。ンして修了証が渡された。